

引用文献

- 朝野熙彦・鈴木督久・小島隆矢. (2005). 入門 共分散構造分析の実際. 講談社サイエンティフィック.
- 畠山典子・原田静香・中山久子・櫻井しのぶ. (2019). 自治体の産後ケア事業（デイケア）を利用した母親の利用前後の気持ちの変化. 日本地域看護学会誌, 22(1), 13-25.
- 星野崇宏, 岡田謙介, & 前田忠彦. (2005). 構造方程式モデリングにおける適合度指標とモデル改善について展望とシミュレーション研究によるあらたな知見. 行動統計学, 32(2), 209-235.
- 石井邦子. (2020). 周産期メンタルヘルスにおける心理社会的支援 産後ケア事業が担う周産期メンタルヘルスにおける機能と課題. 精神科治療学, 35(10), 1075-1079.
- 伊東美智子. (2022). デイサービス型産後ケア事業の研究動向と今後の課題. 神戸常盤大学紀要, 15, 49-60.
- 北田ひろ代. (2015). 産後ケア施設におけるケアが母親のコンフォートに及ぼす影響. 母性衛生, 56(1), 66-76.
- 小松崎愛美・齋藤泰子・小山千秋・青山廣子・萩原玲子・丹波恵津子・谷口真理・富田素子. (2014). 産後ケア事業の評価 利用時期別のケアニーズ. 武蔵野大学看護学部紀要, 8, 63-68.
- 公益社団法人 母子保健推進会議. (2022). 地域における「産前・産後サポート事業」及び「産後ケア事業」の 効果的な展開に関する調査研究 報告書.
<http://bosui.or.jp/pdf/2020%E7%94%A3%E5%89%8D%E7%94%A3%E5%BE%8C%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf> (検索日: 2023 年 5 月 5 日)
- 厚生労働省. (2020a). 産前・産後サポート事業ガイドライン 産後ケア事業ガイドライン.
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/ff38becb-bbd1-41f3-a95e-3a22ddac09d8/aac7b7ba/20230401_policies_boshihoken_78.pdf (検索日: 2023 年 5 月 5 日)
- 厚生労働省. (2020 b). 産後ケア事業の利用者の実態に関する調査研究事業 報告書.
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/ff3

8becb-bbd1-41f3-a95e-

3a22ddac09d8/9a3a4607/20230401_policies_boshihoken_87.pdf(検索日: 2023 年 5 月 5 日)

厚生労働省. (2021). 子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について.

<https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/02.pdf>(検索日: 2022 年 9 月 3 日)

厚生労働省. (2023a). 産後ケア事業の実施状況及び今後の対応について.

<https://www.mhlw.go.jp/content/11908000/001076325.pdf>(検索日: 2023 年 5 月 5 日)

厚生労働省. (2023b). 「令和 4 年度雇用均等基本調査」の結果概要.

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/71-r04/07.pdf>(検索日: 2022 年 9 月 3 日)

みずほ情報総研株式会社. (2018, 0 0). 産後ケア事業の現状及び今後の課題並びにこれらを踏まえた将来の在り方に関する調査研究 報告書 ～産後ケア事業の在り方の検討に向けた 産後ケア事業の実態と課題に関する基礎調査～.

<https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/000520486.pdf>(検索日: 2023 年 5 月 5 日)

中村政美・山本智美・吉田とも子・古川祐子. (2013). 産褥期の助産外来における育児支援に関する研究～2 週間健診の評価～. 神奈川母性衛生学会誌, 16(1), 24-29.

中山和弘. (2018). 看護学のための多変量解析入門/中山和弘著. 医学書院.

日本産婦人科医会. (2018, 0 0). 産後ケアの現状と課題.

[https://www.jaog.or.jp/wp/wp-](https://www.jaog.or.jp/wp/wp-content/uploads/2019/04/b602169813ff5769f663c75472fe53f6.pdf)

[content/uploads/2019/04/b602169813ff5769f663c75472fe53f6.pdf](https://www.jaog.or.jp/wp/wp-content/uploads/2019/04/b602169813ff5769f663c75472fe53f6.pdf)(検索日: 2023 年 5 月 5 日)

日本産婦人科医会. (2021). 産後ケア事業の流れ. [https://www.jaog.or.jp/wp/wp-](https://www.jaog.or.jp/wp/wp-content/uploads/2023/04/403b55fab638966e373664f7f28483c0.pdf)

[content/uploads/2023/04/403b55fab638966e373664f7f28483c0.pdf](https://www.jaog.or.jp/wp/wp-content/uploads/2023/04/403b55fab638966e373664f7f28483c0.pdf) (検索日: 2023 年 10 月 3 日)

野村総合研究所. (2023). 後ケア事業及び産婦健康診査事業等の実施に関する調査研究事業報告書. [https://www.nri.com/-](https://www.nri.com/-/media/Corporate/jp/Files/PDF/knowledge/report/mcs/20230410_7_02.pdf?la=ja-JP&hash=4567C5A14156C116F0745DAFCB3FE222F549577A)

[/media/Corporate/jp/Files/PDF/knowledge/report/mcs/20230410_7_02.pdf?la=ja-](https://www.nri.com/-/media/Corporate/jp/Files/PDF/knowledge/report/mcs/20230410_7_02.pdf?la=ja-JP&hash=4567C5A14156C116F0745DAFCB3FE222F549577A)
JP&hash=4567C5A14156C116F0745DAFCB3FE222F549577A(検索日: 2023 年 5 月 5 日)

岡津愛子・江坂まや・大久保有紀子・佐々木美幸・山田静江・片岡弥恵子. (2021). 東京都における宿泊型産後ケア施設の利用実態と利用者が産後に感じた困難. 日本助産学会誌, 35(2), 133-144.

- 岡田謙介. (2015). 心理学と心理測定における信頼性について—Cronbach の α 係数とは何なのか, 何でないのか—. 教育心理学年報. 54, 71-83.
- 大島恵奈・金澤悠喜. (2016). 産後ケア事業の実態とその効果に関する文献検討. 茨城県母性衛生学会誌, 41, 1-7.
- 下中嘉美・玉城清子. (2017). 産後 1 か月のマターなるボンディングへの影響要因: 母親の睡眠の量・質、うつ症状、属性に着目して. 日本母性看護学会誌. 17(1). 45-52.
- 田中美帆・齋藤いずみ. (2019). 産後ケア事業の利用を妨げる要因について～母親たちがより利用しやすい事業にするための課題～. 母性衛生, 60(1), 83-90.
- 鳥内美智代・岡本英恵・長谷川恵美・小林由子・成瀬政子・泉章夫. (2019). 公費助成によるエジンバラ産後うつ病質問票を活用した産後ケアの介入. 栃木県母性衛生学会雑誌:とちぼ, 45, 23-26.
- 渡邊佑季子. (2023). 産後ケア事業における評価質問紙」の信頼性・妥当性の検討. 2022 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科課題研究.